

発生順

平成30年12月31日現在

No	災害発生日	管 区	都道府県名	鉱種	り災害数			直轄 or 請負	年齢	危害 or 鉱害	災害の種類	概 況	
					死	重							軽
						>4w	4w >2 w						
1	1/11	中国	岡山	ろう石	1			直轄	44	危害	外・落下倒壊物	原料置場ピットにおいて、ショベルローダーのバケットですくいきれなかった原料を、スコップを使ってショベルローダーのバケットに入れていたところ、ピット内に設置していた コンクリート製仕切り板(幅2m×高さ1.2m 厚さ0.3m)が倒れてきたことにより、仕切り板とバケットの間に右太腿が挟まれ、罹災。	
2	1/26	東北	岩手	石灰石	1			直轄	47	危害	外・コンベア	2次破砕設備のベルトコンベア(BC)とテールプーリーに石が挟まり、ベルトがスリップしたため、運転員がこれを除去し再稼働したところ、またテールプーリー側に 石がこぼれてきたため、これをデコ棒(長さ約60cm)で除去しようとしたところ、右腕をBCとテールプーリーの間に巻き込まれ、罹災。	
3	1/29	中部	岐阜	鉛・亜鉛・石灰石	1			請負	35	危害	外・車両系自動車	直轄協力会社社員は、フォークリフトを運転し、結束した製品を新製品倉庫に運搬する作業に従事していた。運転者は、結束した製品をフォークリフトで倉庫に運んだ後、製品の置かれた場所に左後方を目視しバックして戻ったが、 右後方の死角となった場所を歩いていた作業員を確認することができず、フォークリフト右後方箇所が作業員に接触し、作業員は転倒して両足を轢かれ、罹災。 罹災者は、フレコン袋(10枚入り・約20kg)を持ち担当作業場に向かう途中であったが、 決められた歩行区域を歩行していなかった。	
4	1/29	中国	岡山	石灰石				—	—	危害	外・発破火薬類	採掘切羽において、穿孔数9本、孔長7.5m、火薬量115.9kgの 発破を実施したところ飛石が発生 。採鉱詰所に駐車してあった 車両とプラントの建屋が破損 した。飛石の最長水平飛距離は約410mであった。	
5	2/8	関東	埼玉	石灰石	1			直轄	47	危害	外・墜落	作業員A(罹災者)は、製品積み込み設備において詰まりが生じたため、作業員Aと2名の共同作業(計3名)で解消作業を行うこととなった。 作業員Aは、安全帯を備えていたものの、安全リールを共同作業者が使用していたため、使用できない状態にも関わらず、タンクローリーの梯子を昇った。 作業員Aは、 梯子を昇りきった際にバランスを崩し、約3.3m下の床面に墜落し、罹災。	
6	3/9	東北	宮城	金				-	-	鉱害	風水雪害	平成30年3月9日(金)の朝から 豪雨により、0m坑水及び上15m坑水の水量が急激に増加 し、0m坑水及び上15m坑水が非常貯水槽(容量498m ³)に流入した。その後も、非常貯水槽に流入し続けたため、 非常貯水槽の容量を超えて溢流した坑水が鉱山敷地内から市道排水路に流入 し、大朴木川に排出した。	
7	3/12- 3/26	東北	秋田	銅				-	-	鉱害	坑廃水	平成30年4月3日(火)尾去沢鉱山坑廃水処理作業員が春木沢廃水処理所に設置している 苛性ソーダタンクの埋蔵量を確認したところ、0.65m³減っていることを発見 。使用の実績がなく防液堤内のpH値が高いことから、 当該タンクから防液堤内に漏洩したことが判明 し、当鉱山が作業員の聞き取り調査を行ったところ3月12日～3月26日の間に3回防液堤のドレンを開放したことが確認され、排水が悪水川を経由して赤金川へ流出したことが判明した。	
8	3/19	中国	岡山	石灰石	1			直轄	58	危害	外・コンベア	巡視点検中の作業員が、一次機械室のエプロンフィーダーの安全柵を外し、エプロンフィーダーリンクチェーンの寸法合わせを行っていた際、 寸法合わせを行っていたリンクチェーンが、駆動していたエプロンフィーダーに引っかかり、リンクチェーンとC型钢との間に右手が挟まれ、罹災。	
9	4/4	中国	岡山	ろう石			1	直轄	57	危害	内・浮石の落下	坑内掘進切羽で前日の発破作業で発生したズリの搬出作業を終え、浮石状況の目視確認を行ったところ、右側壁とデッキプレートの間に石が引っかかっていたので、 石を落とそうと左手で引っ張り出そうとしたときに、石がずれ落ち側壁と石に左手を挟まれた 。その時はそれほど痛みを感じなかったため、そのまま機械による姑息作業を行った後、天盤の状況を目視で確認を行っていた。その際、落石の予兆があったため、急いで逃げたが、 剥離した浮石が支保工にあたって砕けた石が右手及び左足首、装着していた防じんマスクに当たり、罹災。	
10	4/23	北海道	北海道	石炭	1			直轄	57	危害	内・落盤側壁崩壊	坑内採炭切羽に設置している自走枠と天盤との間に板材を詰める作業が終了した直後、 天盤から珪岩(粘土)の落盤があり、作業者の右足に当たり、罹災。	
11	4/23	関東	東京	けい石				—	—	危害	外・発破火薬類	採掘切羽において 最終残壁の法尻に残った岩塊の修正発破を実施したところ飛石が発生 した。約100m離れた採掘場内駐車場に 駐車してあった構内車の左後方の窓ガラスが破損 したことがわかった。	
12	4/30	北海道	北海道	石炭	1			直轄	36	危害	内・落盤側壁崩壊	坑内採炭切羽横のゲート坑道に設置しているチェーンコンベアで鉄柱を運搬するため同コンベアのチェーンに鉄柱を針金で固定する作業を実施中、 落下した石炭塊(0.6×0.6×0.8m)が同鉄柱に当たって動き、作業員の左足が同鉄柱とトラフの間に挟まれ、罹災。	
13	5/1	関東	埼玉	石灰石				1	直轄	48	危害	内・車両系自動車	坑道内でさく孔用の車両系鉱山機械を移動させていたところ、天盤とさく孔機の先端が接触しそうになったことから当該箇所の角度を変えるため、 コントロールボックスを操作したところ、さく孔機に取り付けてある集塵用ホースが同ボックスのレバーに接触し、さく孔機が動いたため、同ボックスの一部に左前腕部が挟まり罹災した。
14	5/7	中国	岡山	ろう石	1			直轄	34	危害	外・墜落	使用済みデッキプレートの搬入作業中、 トラックの荷台から降りようと左側(進行方向)のアオリに左足をかけ右手を乗せ体重をかけた際に、側面のアオリが倒れ、バランスを崩してトラックの荷台から地面に落下し、右肘を負傷した。	

No	災害発生日	管 区	都道府県名	鉱種	り災者数				直轄 or 請負	年齢	危害 or 鉱害	災害の種類	概 況
					死	重		軽					
						>4w	4w >2 w						
15	5/9	四国	高知	石灰石					－	－	危害	外・火災	穿孔機にて穿孔中、 穿孔機の後方から出火 し、出火に気付いた周囲の作業員による初期消火により鎮火した。 なお、出火の際に、気付いた運転員はあわててキャビンから降車し、離れようと走った際に靴が脱げ、足を擦りむいたが、不休。
16	5/10	九州	大分	石灰石		1			請負	20	危害	外・コンベア	BCヘッド部で居付き除去作業を実施 していたところ、 作業員が誤って別のBCのスイッチを入れたため、動き出したBCのテール部のシュート内で作業していた罹災者は、四つん這い状態で後方に流され、BCの覆いが狭くなっている部分（天端鉄板部）に土砂に載っていた左足を引っ掛け罹災した。
17	5/22	関東	埼玉	石灰石		1			直轄	57	危害	内・車両系自動車	隧道内を油圧ショベルを運転して下っていたところ、左カーブを曲がろうと切り返し動作に入った際、 履帯がコンクリート舗装路面上で横滑りを始め、隧道内を約50m滑り落ちた 。油圧ショベルは隧道のコンクリート巻き立て部分にアームが引っかかって止まった。その際の衝撃でキャビン内前方の手すりに左脛を打ち付け罹災した。
18	5/22	九州	福岡	石灰石				1	直轄	27	危害	外・機械	製品の出荷のため、フレコンバッグへの詰め込み作業を行っていたところ、製品出口のスライド式ダンパーの縁にフレコンバッグの中袋を右手で押さえていた状態で、 ダンパーを開いた際に、右手人差し指を挟まれ、当該指先を罹災した。
19	5/30	中部	岐阜	ドロマイト		1			直轄	38	危害	外・墜落	採掘場の採掘・運搬に従事していた作業員が原石運搬ダンプ（25tダンプ）を南部切羽まで移動し降車しようとした際に、 ダンプ中段フロアで体勢を崩し、約1.77m下の地面に墜落した 。外傷は掌のすり傷程度であるが、既往症である頸椎損傷が再発し中心性脊椎損傷と診断された。
20	6/12	九州	鹿児島	金・銀		1			直轄	30	危害	内・工具	作業員2名が、 パワーショベルのアームシリンダーに手動式グリスガンでグリスアップ作業 を行っていたが、 グリスの通りが悪かったので強く押し込んだところ、グリスホースに突然ピンホールが生じ、当該孔からグリス油が噴き出し、ホースを持っていた作業員1名の右手に貫入した。
21	6/15	中部	岐阜	鉛・亜鉛・石灰石					－	－	危害	外・火災	製品（銀粉）梱包作業室において、 室内のエアコンから黒煙と炎が確認 されたため、作業員が消火器により消火。（延焼範囲は約6.5㎡）
22	7/6	中国	広島	金・銀・鉛・銅他					－	－	鉱害	坑廃水	豪雨の影響により、有害物質使用特定施設からの廃水を受け入れている Pond（池）の水位が上昇したことから、Pondから所外への廃水流出を避けるため、所内側 Pond 水門を開け、所内を冠水させた。そのため、所内裸地に Pond の廃水が浸透した。
23	7/7	四国	愛媛	ドロマイト					－	－	危害	風水雪害	豪雨の影響により、坑内採掘場が水没し、穿孔機及び積込機も水没した。鉱山道路の山側が崩れ、雨水が事務所及び碎鉱場へ流水し、冠水した。
24	7/6夜～7(推定)	中国	岡山	石灰石					－	－	危害	風水雪害	豪雨の影響により、鉱山道路の一部が崩壊し、崩壊した土砂が坑口にも散乱したことから、重機が坑内へ入ることが不可能となった。
25	7/7	中国	岡山	石灰石					－	－	危害	風水雪害	豪雨の影響により、立坑下ベルトコンベア埋没、河川からの給水ポンプ破損、鉱山道路側壁電線切断の被害が発生した。
26	8/1	関東	群馬	石灰石		1			直轄	57	危害	外・転倒	作業員が翌日の発破の準備のため、 紙袋を持って穿孔機の繰り粉排出口まで歩いている途中で、右足が砂利にひっかかり、そのはずみで左足に体重がかかり足を半回転ひねるような体勢になり、体が傾いたため、ひざから崩れるような感じで倒れ、左大腿骨を骨折し、り災。
27	8/7	中国	山口	石灰石		1			直轄	25	危害	外・コンベア	粉碎工場において、 計量ベルトコンベア (重量を図りながら原料を運搬)の 片寄りを調整 していたところ、原料が帰りベルトの内側に落ちたため、 落ちた原料がテールプーリーに噛みこまないように右手で払いのけようとした際に、誤って、テールプーリーとベルトの間に右腕を巻き込まれ、罹災。
28	9/3	中部	愛知	けい石			1		直轄	54	危害	外・車両系自動車	自動車運転中、わき見運転により鉱山道路の盛土（高さ約30cm）を乗り越え、約6m下の沈澱池浅瀬に転落し、り災。
29	9/13	関東	埼玉	石灰石		1			請負	51	危害	外・車両系自動車	原石を運搬するダンプトラックが、破碎設備の原石投入口に 原石を投入するためにバックした際、運転手の後方確認が十分でなかったため、原石投入口脇のガードレールを突き破り転落し、り災。
30	9/17	九州	大分	けい石				1	直轄	63	危害	外・その他	ベルトコンベア補修作業現場へ向かう途中に、 階段を降りた際、左足をひねり、り災。
31	9/19	中国	山口	石灰石					－	－	危害	外・火災	パワーショベルのブームの付け根の 油圧ホースから作動油が漏れ、エンジンルームに飛散し発火 したため、運転手が消火器を用いて消火した。
32	9/25	関東	埼玉	石灰石					-	-	危害	外・発破火薬類	露天掘採場の発破予定箇所2カ所の装薬作業を終え、一つ目の発破箇所（A発破箇所）の結線作業を行った後、次の発破箇所へ移動していたところ、 雷光が見え、同時に爆発音が聞こえA発破箇所が完爆していることを確認した 。なお、発破は導火管付雷管を使用していた。また、当時、雷注意報が発令されていたが、落雷は 11 時 43 分頃に発生した 1 件のみであった。

No	災害発生日	管 区	都道府県名	鉱種	り災者数				直轄 or 請負	年齢	危害 or 鉱害	災害の種類	概 況
					死	重		軽					
						>4w	4w >2 w						
33	10/3	東北	秋田	石油・天然ガス					—	—	鉱害	油排出	関係者がセパレータタンク下部の木栓を開閉レバー付きバルブに交換しようとしたところ、口径が合わなかったため取り付け出来ず、セパレータタンク内に溜まっていた油混じりの坑水（約3,000ℓ）が敷地内に流れ出し、その内の一部を回収したものの約2,000ℓの坑水が敷地内の雨水排出口から、下流の農業用水路へ流出した。 （H30.8鉱山保安法第39条命令発動）
34	10/4	那覇	沖縄	石灰石			1		請負	65	危害	外・その他	プラント倉庫から原料を搬出するため倉庫の扉を開けた際、突風により扉が動き、扉止めに左足脛を挟まれ罹災した。
35	10/10	東北	秋田	銅					—	—	鉱害	坑廃水	廃水処理施設の送水ポンプの配管のジョイント部分が外れ、未処理水の周辺への流出を防止するための措置を講じたものの、未処理水の一部が悪水川（2級河川）流出（流出量は推定で最大147㎡）した。周辺の河川においては、魚等への被害は確認されていない。
36	10/15	関東	埼玉	石灰石				1	直轄	51	危害	その他（埋没）	作業員3名で、製品タンクの清掃作業を実施していた。タンク内部に固着した製品を除去する作業のため、1名がタンク内の昇降はしごで誘導しながら、2名の作業員が固着した製品の上に降り、鋤簾（じょれん）とスコップで周囲を突きながらはしごの反対側へ向かおうとしていたところ、側面の固着した製品が崩れると共に下部の製品が抜け落ちた。1名は自力で脱出したが、もう1名は足を取られて倒れ、埋没し、罹災した。この2名は墜落制止用器具を装着していなかった。
37	11/16	九州	大分	石灰石					—	—	危害	外・火災	ホイルローダーの油圧ホースから漏れたミッションオイルが高温のターボに接触したため出火し、電気ケーブル等に引火した。運転手を含む作業員5名が消火器等を用いて消火した。
38	11/22	九州	大分	石灰石					—	—	危害	外・火災	作業中のクローラドリルの機体中央部のエンジン後方のコンプレッサー付近より火災が発生。オペレーターはエンジンを切って退避し、散水車を呼んで消火活動を行った。散水車ででの消火活動後、鎮火を確認した。
39	12/3	関東	埼玉	けい石		1			直轄	26	危害	外・車両系自動車	重ダンプ運転手A（罹災者）は、ダンプトラック（最大積載量40t）に乗車し、露天採掘場で発生した表土・木くず混じりの鉱石を約2キロ離れた原石置場まで運搬するため鉱山道路を下っていた。減速するためリターダを効かせたところ、後輪がロックされ、スリップを起こし、ダンプ左先端が土手に接触し、車体右側を下に横転した。
40	12/9	中国	山口	石灰石				1	請負	45	危害	外・墜落	ベルトコンベアヘッドのシュート部に穴あきが生じたので、3名で補修作業に着手することとなった。3名のうち1名の作業員が作業準備中、点検通路から1.1m下の足場に降りるために手すりを乗り越え、乗り越えた後に点検通路に置いていた補修道具の入った缶を降ろそうとした際にバランスを崩し、約6m下のフロアに墜落し罹災した。 墜落時は、足場及びベルトコンベアに接触しながら墜落した。また、罹災者は安全帯を着用していなかった。
41	12/11	東北	青森	石灰石					—	—	危害	外・発破火薬類	露天採掘切羽で発破を行ったところ、飛石が発生。約35m離れたところに駐車していたポンプ車の助手席の窓ガラスが破損した。 ポンプ車付近に石（15cm×15cm×5cm）が落ちていたため、これが窓ガラス当たったと推定される。
42	12/17	関東	栃木	石灰石					—	—	鉱害	坑廃水	シクナーを修理するため内部の汚濁水を素掘りの調整池に溜めていたところ、調整池の水抜き孔から汚濁水が河川へ流出（流出量は推定で約300m3）した。河川周辺においては、魚等への被害は確認されていない。
43	12/19	中部	岐阜	石灰石					—	—	危害	外・火災	石灰製造工程の原料を乾燥させるための減圧乾燥機の配管から破裂音がして炎が上がった。消防に通報するとともに、作業員が消火薬剤で消火。災害当日19時20分、消防により消火を確認。
44	12/20	那覇	沖縄	石灰石				1	直轄	67	危害	外・取器	パワーショベルのアタッチメント交換作業を行っていた作業員が、部品の位置合わせをしようとしたところ、パワーショベルの運転手が操作を誤ったため、部品が作業員の顔面に当たり、罹災。
45	12/25	東北	福島	石灰石		1			直轄	63	危害	外・墜落	プラントのベルトコンベア付近で清掃作業を終えた作業員が足を滑らせ、バランスを崩し、約1m下の床面へ落下し、左手を床面に着いた際、罹災した。

No	災害発生日	管 区	都道府県名	鉱種	り災者数				直轄 or 請負	年齢	危害 or 鉱害	災害の種類	概 況
					死	重		軽					
						>4w	4w >2 w						
				合計	0 -	17 -	3 -	6 -	総計 26 人 - 人 り災者数のうち、丸数字は非鉱山労働者				
				合計改め	0 -	20 -		6 -					
				死	重		軽 <td colspan="5" rowspan="3"></td>						
					>4w	4w >2 w							

全国の災害発生状況（平成30年）
度数率:1.22（目標値:0.70以下）
強度率:0.07

沖縄の災害発生状況（平成30年）
度数率:1.75（目標値:0）
強度率:0.03

注1:度数率は、労働者災害発生の頻度を表す数値として、100万時間当たりの罹災者数として表す

注2:強度率は、労働災害による労働にすうの損失を表す数値として、1,000労働時間当たりの労働損失日数として表す

参考:沖縄の直近5年間の度数率・強度率※()内は全国値

発生件数		罹災者数	
危害	39 件	直	21 人
鉱害	6 件	請	5 人
その他	0 件	非	0 人

発生件数(鉱種別)		罹災者平均年齢	
石炭	2 件	46.2 歳	
金非	16 件		
石灰	26 件		
石油	1 件		

度数率= $\frac{\text{罹災者数}}{\text{稼働延時間}} \times 1,000,000$

強度率= $\frac{\text{損失日数}}{\text{稼働延時間}} \times 1,000$

災害種別発生件数(罹災者数)			
運搬装置(運搬その他)	件	(人)	
運搬装置(コンベア)	4 件	(4人)	
運搬装置(車両系自動車)	6 件	(6人)	
うち(車両系鉱山機械)	3 件	(3人)	
墜落	5 件	(5人)	
火災	6 件	(人)	
取器	1 件	(1人)	
落下倒壊物	1 件	(1人)	
工具	1 件	(1人)	
飛石転石	件	(人)	
落盤側壁崩壊	2 件	(2人)	
浮石の落下	1 件	(1人)	
転倒	1 件	(1人)	
岩盤崩壊	件	(人)	
発破火薬類	4 件	(人)	
機械	1 件	(1人)	
粉じん	件	(人)	
しゃく熱熔融物	件	(人)	
その他	3 件	(3人)	
坑廃水	3 件	-	
油排出	1 件	-	
鉱 煙	件	-	
風水雪害(震災・台風その他の自然災害)	4 件	-	
毒劇物	件	-	
坑廃水(土壌)	1 件	-	

罹災者のうち丸数字は非鉱山労働者

平成31(2019)年の全国の災害発生状況

発生順

2019年2月28日現在

No	災害発 生月日	管 区	都道府県 名	鉱種	り災者数				直轄 or 請負	年齢	担当職務 経験年数		危害 or 鉱害	災害の種類	概 況
					死	重		軽			年	月			
						>4w	4w >2 w								
1	1/11	東北	岩手	石灰石				①	－	－	-	-	危害	外・落下倒壊物	ローリーの運転手(非鉱山労働者:54歳)が製品の積み込み作業中、7枚重ねたパレットにパレットを3枚立て掛けた脇で風を避けながら待機していたところ、この3枚の パレットが強風により煽られて倒れ足に当たり、罹災。
2	1/23	中国	岡山	石灰石		1			直轄	32	1	5	危害	外・コンベア	ベルトコンベアの運転中、作業員が蛇行調整を行っていたところ、リターン側(下側)の ベルト(ベルト幅:50cm)に小石を発見し、手でそれを取り除こうとしたところ、左腕をテールローラに巻き込まれ、罹災。
3	1/28	中国	岡山	石灰石		1			直轄	23	0	10	危害	内・浮石の落下	坑内でサブレベル採掘を実施している採掘箇所で、発破で起砕、降下した鉱石の抜き出し箇所において鉱石の積み込み作業中、 鉱石が上部より落下 し、ホイールローダを運転していた 作業員がステアリングの支柱と鉱石(約70cm径)の間に右足を挟まれ、罹災。
4	1/29	関東	東京	けい石				1	直轄	50	10	1	危害	外・飛石転石	採掘場の移動式破砕機を移設するため、作業員が破砕機から20mくらいの位置でリモコンを操作していたところ、 キャタピラが踏んだと思われる小石が飛来し右目に当たり、罹災。
5	2/1	東北	岩手	石灰石			1		直轄	47	2	10	危害	外・取器	移動式クラッシャーの始業点検時、作業員がエンジンオイル等を確認するため、エンジンルームのボンネットを開けて点検作業を行っていたところ、 ボンネット(重量:63kg)が強風に煽られて突然閉まったため、左腰付近を打撲し、罹災。
6	2/9	関東	新潟	石油・天然ガス		1			請負	55	37	10	危害	外・転倒	ガス坑井掘削作業現場において、罹災者が、 養生鉄板上を歩行中、足を滑らせ後方へ尻餅をつくような格好で転倒 した際、鉄板と鉄板の隙間に右足つま先が引掛かり、 体重が右足に乗り、右足脛骨を骨折し、罹災。
7	2/14	関東	栃木	石灰石		1			直轄	54	3	9	危害	外・コンベア	プラント作業員は、2月12日に発生した当鉱山の他プラントで発生したかすり傷による災害事例の説明を同僚へ行っていた際、思わず 左手を稼働中のコンベア(ベルト幅:30cm)に乗せたため、コンベアと補助ローラーの隙間に左手を巻き込まれ、罹災。
8	2/17	中部	岐阜	石灰石		1			直轄	47	13	5	危害	外・車両系自動車	8トンドンプトラックで構内道路を通して鉱石を貯鉱場へ運搬している途中、 運転手がシフト操作ミス(推定)をしたことから車体が激しく揺れ、シートベルトを着用していなかったため運転席で腰を打ち付け、罹災。
				合計	0 -	5 -	1 -	1 ①	総計 7 人 ① 人 り災者数のうち、丸数字は非鉱山労働者						
				合計改め	0 -	6		1 ①							
						-									

発生件数		罹災者数	
危害	8 件	直	6 人
鉱害	0 件	請	1 人
その他	0 件	非	1 人

発生件数(鉱種別)		罹災者平均年齢
石炭	0 件	44.0 歳
金非	1 件	
石灰	6 件	
石油	1 件	

災害種別発生件数(罹災者数)		
運搬装置(運搬その他)	件	(人)
運搬装置(コンベア)	2 件	(2人)
運搬装置(車両系自動車)	1 件	(1 人)
うち(車両系鉱山機械)	件	(人)
墜落	件	(人)
火災	件	(人)
取器	1 件	(1人)
落下倒壊物	1 件	(1人)
工具	件	(人)
飛石転石	1 件	(1人)
落盤側壁崩壊	1 件	(1 人)
浮石の落下	件	(人)
転倒	1 件	(1人)
岩盤崩壊	件	(人)
発破火薬類	件	(人)
機械	件	(人)
粉じん	件	(人)
しゃく熱熔融物	件	(人)
その他	件	(人)
坑廃水	件	－
油排出	件	－
鉱 煙	件	－
風水雪害(震災・台風その他の自然災害)	件	－
毒劇物	件	－
坑廃水(土壌)	件	－

罹災者のうち丸数字は非鉱山労働者

① 鉱山関連災害

発生日時：平成30年10月4日

発生場所：名護市

被害状況：罹災者1名（左足脛骨折：休業日数88日）

○災害概要

罹災当日は、台風が接近しており鉱山内のタンカル工場内は停電していた。罹災者は、停電が復旧した際に、直ちに製品製造を行えるようにするため、あらかじめタンカル工場の原料ホッパーに原料を入れようと、タンカル工場上部に設置している原料倉庫から原料を搬出しようとした。

原料倉庫の鉄製で観音開きの右側扉を手前に引きながら90度近く開けたところ突風が吹き、扉が煽られ扉の勢いを抑えきれず、扉と扉固定用ブロックとの間に左足を挟まれ罹災



罹災時の様子を推定して再現



罹災者発見時の様子を再現

○災害後の状況

鉱山労働者に対して、災害の報告・注意喚起を行い、台風の強風域に入った際には作業の中止を行うこと、鉱山内で単独作業を行わないよう周知徹底した。

① 鉱山関連災害

発生日時：平成30年12月20日

発生場所：八重瀬町

被害状況：罹災者1名（右頬骨骨折：休業日数9日）

○災害概要

災害当日は、作業員A（罹災者）と作業員Bの2人1組でバックホーのアタッチメント交換作業を行っていた。作業員Bがバックホーのアームを操作し、アタッチメント接続部分の丸棒の位置合わせをしていたところ、レバー操作を誤り丸棒がはね、アーム先端付近にいた作業員A（罹災者）の顔面に当たり罹災した。



丸棒の位置合わせを行っていた際に
バックホーのアーム操作を誤り
丸棒が罹災者の顔面に当たった



アタッチメント交換の様子（再現）

○災害後の状況

鉱山労働者に対して、災害の報告をするとともに、作業手順書の策定を行った。

また、中央労働災害の個別支援を活用し、鉱山の安全管理体制及び作業手順書等の再度見直し、その結果を基に全鉱山労働者に対する教育・再教育を予定している。